

quelpaertensis NAKAI) (= *Prunus nudiflora* KOIDZ. pro parte!) と全く別種の櫻とするが穩當なるものなるを認むるに到りたるを以て、白瀧櫻を一個獨立の種類となし **Prunus Shirataki** KOIDZ. (*Prunus sacra* MIYOSHI f. *longipes* MIYOSHI) と命ず。

又長門國萩市に産するミドリヨシノザクラは本田正次氏により *Prunus yedoensis* MATSUM. var. *Nikaii* HONDA としてソメキヨシノザクラの變種とされしが、本品亦一個獨立の種類なる事明になりしを以て新に **Prunus Nikaii** (HONDA) KOIDZ. と命ず。

莎草科植物雜記 (II)

大井次三郎

12) ウミベスゲ

本邦に *Carex salina* WAHLENBG. が産する事についてはまだ記録がないが此のものは北海道及び樺太の海岸の濕地に稍稀れに分布して居る、國外では北半球の北部一帯に亘つて産するものである。ウミベスゲはヒメウシホスゲよりも全體が大形である上に葉が巾廣いとその縁邊が乾燥すると多少外曲する傾向があるので容易に見分けられるし又果囊と鱗片との比も多少違ふ、新しくウミベスゲと呼稱する、尙 LEVEILLÉ 氏が Bull. Acad. Intern. Géogr. Bot. (1910) 51 頁で *Carex Middendorffii* forma として居るものは此の種に屬する。

13) コキンスゲ

KÜKENTHAL 氏に依ると *Carex pyrenaica* WAHLENBG. 即ちキンスゲにはその他に變種 var. *altior* KÜKENTH. セイタカキンスゲが本邦に産する事に成つて居るが此の兩品を明瞭に區別するのは容易ではない、彼の本によると此の *C. pyrenaica* WAHLENBG. に柱頭の三本のもが多く、稀れには二本のものもあると云ふ事であるが本州及び北海道のものは私の知つて居る範圍では三本のもののみである。しかるに樺太には從來此の種は知られて居なかつたが豊原町の廳博物館菅原繁藏氏は同地の敷香郡幌登岳で初めて採集され又京都の大橋達夫氏も昨夏北千島に旅行して占守島で採つたものを當教室に寄附せられたが、此の兩品を見ると何れも柱頭が二個であるのみならず、從來のキンスゲよりも穂が短かく密花で果囊は短かく巾が廣い少々變つたものである、此れは C. A. MEYER 氏が *Carex micropoda* C. A. MEY. と呼んだ形ちで北米北西部に産し又勸察加で KOMAROV 氏や HULTÉN 氏が *C. pyrenaica* Wg. にあてて居るものも同じ此の植物である、BOCKELER 氏や KÜKENTHAL 氏は此の兩者を

March, 1933.

141

同じ物として取扱つて居るが BOOTT 氏や MACKENZIE 氏は別種として居る、北海道、本州やカウカサス産のもの等と比較すると樺太、北千島のものは可なり明瞭な相違がある上地理的にも明瞭な違ひがあるから私は別種とした方が穩當ではあるまいかと思ふ。従つて樺太、北千島のものには新しくコキンスゲと呼稱する様にしたい、その主要な Synonymy 等は次の通りである。

Carex micropoda C. A. MEY. 'Cyper. Nov. in Mém. Acad. St.-Pétersb. Sav. Ét. 1 (1831) 210 pl. 6'; KUNTH Enum. Plant. 2 (1837) 371; GRISEB. in LEDEB. Flor. Ross. 4 (1853) 267; STEUD. Syn. Cyper. (1855) 184; BOOTT Ill. Carex 4 (1867) 192; MACKENZIE in North Amer. Fl. 18:1 (1931) 28.

Carex nivalis CHAM. ex STEUD. l.c. 184, non BOOTT.

Carex pyrenaica KUDO Fl. Paramushir (1922) 78; KOMAR. Flor. Penins. Kamtsch. 1 (1927) 224; HULTÈN Flor. Kamtch. 1 (1927) 174; MIYABE et KUDO Flor. Hokk. a. Saghal. 2 (1931) 217 quoad pl. ex Paramushir; AKIYAMA Consp. Car. Japon. (1932) 57 quoad pl. ex ins. Kurilensibus, non WAHLBG.

Nom. Jap. Ko-kinsuge.

Hab. Sachalin (in m. HOROTO, S. SUGAWARA in 1932), Kuriles (ins. Shumushu, T. OHASHI in 1932).

Distrib.: Asia, Saghalien, Northern Kuriles and Kamtschatka; America, Coast of Alaska from Unalaska to the Pribilof Islands.

14) *Carex laeviculmis* MEINSH. 本邦に産するや

C. laeviculmis MEINSH. は MEINSHAUSEN 氏が北米のシトカ及び勘察加の標本によつて記載した種で北米の西部には比較的廣く分布して居る様である、KÜKENTHAL 氏に依れば北米、勘察加の外に日本にも産するもの由であつて此の記事が恐らく今日までそのまま用ひられて諸所に引用されて居るものと思はれる、KOMAROV 氏はその著勘察加植物誌第一卷に此の種が勘察加にも産すると云ふ記事があるが HULTÈN 氏の著勘察加植物誌第一卷によれば此れ等は *C. traiziscana* FR. SCHM. に外ならぬもので MEINSHAUSEN 氏が勘察加として引用した標本も實際勘察加産のものか如何か疑問であるがその地理的分布から考へて南部地方には見つかるかも知れぬと記して居る。

本邦に此の種の分布する事を最初に記した人は恐らく前記の KÜKENTHAL 氏であらう、同氏はその著 Cyperaceae-Caricoideae in Engl. Pflanzenr. (1909) の 233 頁に於て Yesso, auf dem Shiribeshi 1800 m (FAURIE n. 6453!); Nippon, Nikko (MATSUMURA!) の二枚の標本を引用して居る、秋山茂雄氏も Conspectus Caricum

japonicarum (1932) (81頁) では本體 KUKENTHAL 氏と同様に考へ和名もタチカハズスゲと云つて居られるが産地は特に列擧されては居らない。

で此の KUKENTHAL 氏の引用した二枚の標本の内、故 U. FAURIE 氏の採品は幸ひ當教室に副標本があるのでついで見た所我々がヒメカハズスゲと呼んで居る植物と殆んど差のないものであつた、最後の手段として獨逸の Berlin-Dahlem 植物園 R. PILGER 博士から KUKENTHAL 氏引用の原品二枚を拜借して見る事か出来たがそれによつて FAURIE 氏の副標本と同じくやはりヒメカハズスゲそのものに見誤りであつて *Carex laeviculmis* MEINSH. ではない。従つて *C. laeviculmis* MEINSH. は本邦のフロラから除かるべきであつて 勘察加でも疑はしく恐らく北米西部地方だけのものではあるまいかと想像する。

15) *Carex trichopoda* FRANCH.

東亞のスゲに關する FRANCH 氏の不朽の名著 *Les Carex de l'Asie Orientale* (1896-98) にはそのときまでに知られた種類全部について詳しい考證と記載とがある外に二十數葉の精巧を極めた圖版があつて我々スゲに興味を持つものの目を樂ませて呉れる。

同書の第一冊目の第十一圖版には *Carex longkiensis* FRANCH. と云ふ支那産のスゲと *Carex trichopoda* FRANCH. なる本邦産の種類の圖がある、此の *C. trichopoda* FRANCH. は始め故 U. FAURIE 氏が本洲の北端、陸奥國の五戸町附近で採集した標本につき FRANCHET 氏が *Bulletin de la Société philomatique de Paris* 8:7 (1895) p. 43 に發表した學名で、その後 KÜKENTHAL 氏 (1909) がコタヌキランの變種と考へて *C. Doenitzii* BOECKL. var. *trichopoda* (FRANCH.) KÜKENTH. と改めて以來そのまま今日に及んで居るが誰れも此の植物について調べた人はその後にはない様である、FRANCHET 氏の圖によるとコタヌキランに酷似して居て丈が低く雌花小穂が短かくその柄は著しく長いものであつて幸ひにも當教室には五戸町で FAURIE 氏の採集した副標品があるのでよく見た所タヌキラン即ち *C. podogyna* FRANCH. et SAVAT. の唯瘦せこけた、しかも未熟な標本であつてコタヌキランとは全く縁のない別物である事が判明した。

抄 録

クリストフォーウィツチ氏及ブリナチ氏：—烏蘇利地方中生代植物の研究